編輯室内外

本年もはや櫻花の季節となつた、編輯匆忙の裡に烏兎の走ること何ぞ速かなるとの嘆を禁ずる能はざる次第である、次號は次號はと其の編輯の整備進歩を期しつゝあるも毎號其の意をみたす能はざることを陳謝せざるを得ない。

政府者が如何に内政に外交に將又事變處理に不斷の苦勞を爲すとも、帝國議會が如何なる形相を呈するとも國民が如何に忍苦の生活を營みつゝあるとも四時の運行は依然として不變である、歳々年々花相同しきも年々歳々世相は變ず、是に處して不變不動の道を辿らんことは唯夫れ眞理に遵ふのみである。

汪兆銘氏の熾烈熱誠な愛國憂民の志は遂に達せられて今や新國民政府の樹立となり南京還都となり、一黨專制の弊を排して堂々和平建國の大道に歩武を進めることとなつた、我帝國將に協力して萬難千艱を克服し多大の犧牲を敢てし以て東亜和平の基礎を打立てんとして居る、吾等國民は一段の決意と敢行とを要求せられて居る、洋々たる希望は玆に顯現した、遙かに歐洲の空を望めは戰は今や高潮に向はんとし機械化軍器の偉力は空前の慘酷を見せんことと狼藉や花見る人の長刀などの比でない、功利主義の政治の恐るへきは今更らの事相ではないのである。

第七十五回帝國議會終らんとして更らに二日の延長となつた、議會開會の間際阿部内閣が退却し、米内内閣が組織せられ新大臣の驚くべき奮勵と努力とを費されたるに拘らず衆議院に於ける齋藤氏の投したる一石は存外に議員の心理に多大なる影響を及ぼし各政黨内訌の爲多數の日子を空費するの情態となつた、併し重要法案は殆んど審議を了し未曾有の戰時豫算總額百五十億圓も協賛し議會の任務は略ぼ終了した、今後は政府者の忠誠と熱力とに依頼するの外はない。

地方制度の改正、地方税制の劃期的改革の如き地方自治政の上に一大變革を來たすべきものである、地方自治團體員たるもの餘程の注意と努力とを要する、更らに地方團體金庫制度、府縣と市町村との中間機關の設置等何んとしても其の整備を緊要とする。一車一翼成るも完全なる活動は望まれない。

昭和十五年度の勞務動員計畫に關し議會に於て竹内企畫院總裁は「十五年度の勞務動員、計畫は他の物動計劃が明確に樹立されない内は確定しないが大體新規需用勞働數を百十一萬と推定しこれが對策に就き半島勞働者の移入、女子勞働者の採用その他勞務の調整を計つて一段と正確を期したい」と答へられた遺算を生ずることなく計畫の萬全に努力せられたい。

一地方に一軒の米屋が闇取引をしたので檢擧せられた。で他の數軒の米屋も同し闇取引を爲し同一處刑を受けなければならぬと自告したる事件があつたと仄聞す、事實果してありしや否や知る由もないが、米の不足に加ふるに米屋の缺乏を告ぐるならば其地方民はどうなるであらうか憂しと見し世ぞ今は戀しき思ひがする。

時局はます〳〵金の必要に迫られつゝあるので深山幽谷を跋渉して百萬分の三だ四だといふ金鑛を探し出すのもよいが十分の八か九といふ含有率を口に保有する金の入齒に注目する一策であらう、卽ち金齒登錄を行はしめて虎は死しても皮を留める、人死して齒を留めしむるもまた可ならずやと論ずる者がある、之に共鳴する者あるや否、此論者舌禍にかゝらざれば幸なるかな。

物資統制で紙の不足が盛に叫ばれて居るにかゝわらず、書店の店頭には新らしいインキの句のする新刊書籍が堆積せられ書籍泥濫の光景が見らるる、之は事變の影響の爲め高尙で精神的な趣味娯樂としての讀書が眞面目な銃後大衆の間にクローズアップされて來たのと殷賑産業の勃興及び之に伴つて勤勞階級の收入が增加し子供達にも賞つてやる餘裕が出來たことを物語ると某氏は語る、果して之れ國策に順應したる好現象なるや否多少の疑なきを得ない。

（三、二五、洮）

定價一部 五十錢
一ヶ年分 金六圓
發行所 東京市麴町區霞關一丁目内務省内
社團法人 道路改良會
電話銀座(57)四二七
東京市世田谷區代田壹丁目七八〇
發行者編輯者 小島效
東京市小石川區諏訪町五六
印刷所 常磐印刷所
印刷者 奈良直一